

うし 丑年生まれの人口（平成21年1月1日現在の概算値）

平成21年を迎えるに当たり、京都市の丑（うし）年生まれ（年男・年女）の人口を推計しましたので、その概要を紹介します。

1 丑年生まれの人口

平成21年1月1日現在の京都市の丑年生まれの人口（推計）は12万6090人で、総人口146.7万人に占める割合は8.6割となっています。男性は6万410人で、男性の総人口69.8万人に占める割合は8.7割、女性は6万5680人で、女性の総人口77.0万人に占める割合は8.5割となり、女性の方が5270人多くなっています。

丑年生まれ人口を出生年別にみると、第1次ベビーブーム世代の昭和24年生まれが最も多く2万6610人、次いで第2次ベビーブーム世代の昭和48年生まれが2万3520人、更に、昭和60年生まれが2万880人となっています。

男女別では、平成9年生まれと昭和60年生まれでは男性が多く、その他の出生年では女性が多くなっています。また、男性は昭和36年生まれ（7780人）と昭和12年生まれ（7800人）がほぼ同数であるのに対し、女性では昭和36年生まれ（8270人）よりも昭和12年生まれ（9240人）が1000人近く多くなっています。

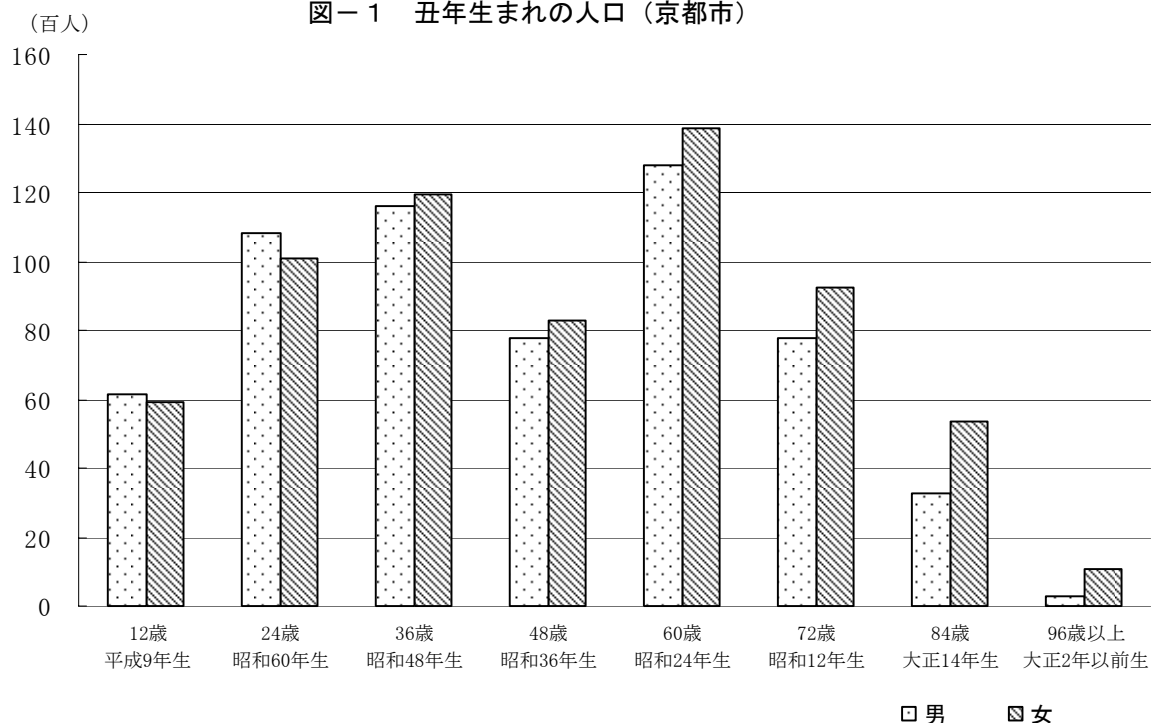
表－1 丑年生まれの人口（京都市）

生まれた年	年齢（誕生日を迎えたとき）	男女計		男		女		性比
		人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）	人数（人）	割合（%）	
総数		126,090	100.0	60,410	100.0	65,680	100.0	92.0
平成9年	12歳	12,040	9.5	6,140	10.2	5,900	9.0	104.1
昭和60年	24歳	20,880	16.6	10,790	17.9	10,080	15.3	107.0
昭和48年	36歳	23,520	18.7	11,590	19.2	11,930	18.2	97.2
昭和36年	48歳	16,050	12.7	7,780	12.9	8,270	12.6	94.1
昭和24年	60歳	26,610	21.1	12,770	21.1	13,840	21.1	92.3
昭和12年	72歳	17,050	13.5	7,800	12.9	9,240	14.1	84.4
大正14年	84歳	8,590	6.8	3,240	5.4	5,350	8.1	60.6
大正2年以前	96歳以上	1,360	1.1	300	0.5	1,060	1.6	28.3

（注）「概算値」について

この資料は、平成20年12月1日現在の推計人口などを基に、平成21年1月1日現在の人口を推計して作成しています。このため、平成21年1月下旬公表予定の1月1日現在の推計人口とは結果が異なる場合があります。また、各表の数値を10人の単位で四捨五入していますので、内訳の合計が総数に一致しない場合があります。

図－1 丑年生まれの人口（京都市）



2 行政区別にみた丑年生まれの人口

丑年生まれの人口を行政区別にみると、伏見区が2万4340人で最も多く、以下右京区（1万7520人）、左京区（1万4570人）と続き、区の人口の多い順となっています。また、区の総人口に占める割合は、上京区が8.9％で最も高く、北区が8.3％で最も低くなっています。

男女別では、すべての区で女性が男性より多くなっています。また、丑年生まれが占める割合をみると、男性では東山区が9.1％で最も高く、西京区が8.4％で最も低くなっています。女性では、上京区が8.9％で最も高く、東山区が8.0％で最も低くなっています。

表－2 行政区別の丑年生まれの人口

行政区	人口（人）			各区総人口に占める割合（％）		
	男女計	男	女	男女計	男	女
京都市	126,090	60,410	65,680	8.6	8.7	8.5
北 区	10,130	4,990	5,140	8.3	8.5	8.1
上京区	7,330	3,410	3,920	8.9	8.9	8.9
左京区	14,570	7,190	7,380	8.7	8.9	8.6
中京区	9,060	4,250	4,810	8.7	9.0	8.6
東山区	3,440	1,570	1,870	8.5	9.1	8.0
山科区	11,720	5,560	6,160	8.6	8.6	8.6
下京区	6,560	3,060	3,500	8.6	8.7	8.5
南 区	8,490	4,170	4,320	8.6	8.5	8.7
右京区	17,520	8,350	9,170	8.6	8.7	8.6
西京区	12,930	6,200	6,730	8.4	8.4	8.4
伏見区	24,340	11,660	12,680	8.6	8.6	8.6

3 十二支別の人口

京都市の人口を十二支別にみると、子（ね）年生まれの13万6090人が最も多く、亥（い）年生まれの13万1300人が続き、丑年生まれは3番目となっています。この3つの干支の生まれは、昭和22年から24年にかけての第1次、昭和46年から49年にかけての第2次ベビーブームの世代を含んでいるため、人口が多くなっています。

表－3 十二支別人口

十二支別	人口（人）	総人口に占める割合（％）	人口順位	十二支別	人口（人）	総人口に占める割合（％）	人口順位
子（ね）	136,090	9.3	1	午（うま）	115,170	7.8	11
丑（うし）	126,090	8.6	3	未（ひつじ）	116,110	7.9	10
寅（とら）	123,260	8.4	6	申（さる）	116,880	8.0	9
卯（う）	121,400	8.3	7	酉（とり）	112,040	7.6	12
辰（たつ）	124,580	8.5	5	戌（いぬ）	119,100	8.1	8
巳（み）	125,170	8.5	4	亥（い）	131,300	8.9	2